



オクラ（アオイ科 原産地アフリカ北東部）
撮影日：令和2年8月22日 秋田市民家菜園

目次

生産現場情報：あなたもGAPに取り組んでみませんか？
～（株）相川ファームがGLOBAL G.A.P.認証を取得～・・・P 2

営農支援情報：令和3年産水稲の重点指導事項・・・・・・・・・・・・・・P 3～5

ご 紹 介：2021シーズンもブラウブリッツ秋田を応援！
～県外キャンプに向け秋田県産農畜産物を贈呈～・・・・・・・・・・・・P 6

お知らせ：2月14日は大切な人にお花を贈る日。
～Flower Valentine 2021～・・・・・・・・・・・・P 7

あなたもGAPに取り組んでみませんか？
～(株)相川ファームがGLOBAL G.A.P.認証を取得～

1 GAPとは

GAP (Good Agricultural Practice)とは、農産物（食品）の安全を確保し、より良い農業経営を実現する取り組みです。農産物の生産で最も重要なことは、食品としての安全を確保することですが、同時に持続可能な農業生産を行うためには食品安全だけでなく、環境保全、労働安全、人権保護、農場経営管理に関する取り組みも必要です。

GAPは、これらの取組状況を記録簿や掲示物によって確認・表示しながら、農業活動を改善することで、より良い農業経営を実現する取り組みです。

2 GAPへの入口は、認証を目的としない「GH農場評価」がおすすめ！

GH (Green Harvester)農場評価とは、農場や生産組織においてGAP規範が示す内容の達成度を評価し、農業経営や生産技術などの改善に役立てる教育システムです。

自分の農場がどれだけのGAPレベルにあるかを自分で客観的に判断するため、農場で実践すべき108項目を定め、それぞれの項目について「問題なし」「軽微な問題」「潜在的な問題」「重大な問題」「喫緊の問題」の5段階で評価し、提供される改善項目を農業者が自ら実践することで「自然環境や農業環境」、「農業に携わる人や生活者」、「農産物や食品」などに関するリスクの低減に努めることを目的としています。また、「認証」を目的としていないことから気軽に取り組みますので、関心のある方は営農支援課までご相談ください。

秋田県内のGAP認証取得状況

東京オリンピック・パラリンピックを契機にGAPへの関心が高まっており、秋田県内でも認証取得件数が増えています。

GAPの種類		認証取得件数
民間認証	GLOBAL G.A.P.	9件
	ASIAGAP	1件
	JGAP	30件
秋田県版GAP確認制度		7件

※令和2年12月末現在
※秋田県農林水産部水田総合利用課作成資料
「秋田県内のGAP認証取得状況」より引用

のです。審査は令和2年9月30日に行われ、関係機関の立ち合いのもと、審査員が審査基準書の各項目に適合しているかを書類審査、聞き取り、現地調査等により行い、「適合」「不適合」を判定しました。聞き取りで多くの時間をかけ重要と思われたのは、リスク管理とその対策手順についてや、農薬使用に関する事項等でした。

3 取組事例 「(株)相川ファーム」ではGLOBALG.A.P.認証を取得

湯沢市相川の(株)相川ファームでは、令和2年11月11日にGLOBAL G.A.P.認証を取得（品目:コメ）しました。

GAP取得の動機は、自社で生産する農産物の販路拡大と、将来的に必要なと確信したことによるもの



認証取得のための現地審査風景



令和3年産水稻の重点指導事項

令和2年産水稻の作柄は、農家等が使用しているふるい目幅（1.90mm）ベースの10a当たり収量が566kg、作況指数105の「やや良」となりました。また、12月末日現在の1等米比率は91.2%で、品種別の1等比率は、あきたこまちが92.3%、ひとめぼれが95.3%、めんこいなが91.5%となっており、2等以下に格付けされた主な理由としては、形質44.4%、着色粒41.4%、被害粒8.4%となっています。

昨年は、育苗期の平均気温が低く、出芽の遅れ等もありましたが、その後天候にも恵まれ、おおむね順調に推移し、あきたこまちの全県平均での出穂期は8月2日（平年差-1日）で、㎡当たり穂数が多く、1穂当たり粒数は平年並み、㎡当たり粒数が多いことなどが良好な作柄につながりました。しかしながら、地域間・圃場間で肥培管理による生育のバラツキがみられました。

令和3年産水稻作では、昨年の課題を克服し、一層の高品質・良食味米安定生産を図るため、地域や土壌条件を考慮した基本技術の励行のもと、次の技術対策を重点に推進してください。

【気象変動リスクを軽減する総合的な土づくり】

高品質・良食味米を安定的に生産するためには、排水性の向上や土壌養分の均一化、地力の増強や深耕によって根を健全に保ち、根域を深く拡大させ、生育途中の急激な葉色低下や生育の停滞を防ぎ、登熟後半まで根の養水分吸収能力や光合成能力を高く持続させることが重要です。

近年、耕深が浅い傾向にありますが、少なくとも耕深15cmは確保するようにします。また、定期的に土壌診断を行い、診断結果に基づいた必要な量のたい肥や土壌改良資材、化学肥料をバランス良く施用していくことが重要です。

【適期の田植えと栽植密度の適正化】

極端な早植えや遅植えは、その後の気象経過により作柄や品質に大きく影響します。田植えは、日平均気温で稚苗13℃、中苗14℃以上の日とし、できれば日中の最高気温20℃以上の日に実施し、最高気温15℃以下の日は田植えを行わないようにします。

また、低温時の初期生育の遅延を避け、出穂期が早まることによる高温登熟の影響を軽減するため、移植は次の時期（あきたこまち中苗の場合）を目安に行います。

田植え時期（鷹巣：5月15～20日頃、秋田：5月20～25日頃、横手：5月20～25日頃）

近年の栽植密度は低下の傾向にあります。栽植密度の低下は、その後の茎数確保（穂数確保）に大きな影響を与え、作柄・品質・食味の低下も懸念されることから、㎡当たり21～22株（70株/坪）以上を基本として、1株当たりのかき取りは稚苗で4～5本、中苗で3～4本を目安に実施します。

【水管理による適正な生育量の確保】

本田の水管理は、安定した作柄を確保するための重要な技術です。特に、初期生育の良否は、その後の生育量や出穂時期、収量まで影響します。このため、活着後は温暖な日に浅水、寒い日に深水とすることにより、水温・地温を高めて初期生育の確保に努めます。

中干しは、中苗あきたこまちでは、6号1次分げつが発生したら遅れずに実施して、充実した有効茎の確保を図ります。中干しの期間は7～10日位とし、田面に亀裂が1～2cm入り足跡が付く程度とします。

幼穂形成期から減数分裂期頃にかけては低温に弱い時期となることから、この時期に日平均気温20℃以下や最低気温17℃以下の低温が予想される場合は、深水管理とします。

出穂期後10日間は、湛水状態を保つようにします。その後は間断かん水を基本とし、早期の落水は避け、高温時やフェーン現象等の乾燥した風が強い日は、かけ流し等の水管理を行います。

【生育中期の適正な施肥管理】

生育中期の施肥管理は、理想とする生育量と比較する生育・栄養診断により適切に実施し、追肥の要否や施肥量の判断を行います。

m²当たり籾数が過剰になると整粒歩合は低下し、米粒中の窒素含有率は高くなり、品質・食味が低下します。あきたこまちにおいて、目標収量を570kg/10aとした場合に必要なm²当たりの籾数は30.3～31.5千粒であり、幼穂形成期の栄養診断による追肥により、目標のm²当たり籾数の確保に努めます。

中干し以降の葉色低下は、下層への根の伸長を減少させるとともに、収量・品質へ大きく影響するため、肥効調節型肥料の使用やたい肥の施用による地力増強を図り、葉色低下を防止します。

【雑草防除の徹底】

近年、生育後半におけるノビエ等の発生が目立つ圃場が散見されます。雑草の多発は害虫の発生にも影響し、多発した圃場は埋土種子量が多いと考えられるため、雑草の種類と量に応じた適切な除草剤を選択し、適期に使用するとともに、使用后7日間は止め水として、水質汚染防止に努めます。また、水田周辺の水系など環境に配慮し、田植え前には使用しないようにします。

除草効果を十分発揮させるためには、畦畔補修等の漏水対策や田面の均平、圃場条件に合わせた剤型（フロアブル、ジャンボ剤等）の選択が効果的です。

【いもち病防除対策】

本田におけるいもち病の発病の主因は、育苗施設からの発病・感染苗の本田への持ち込みであります。そのほか、乾燥状態で冬を越した稲残さ（稲わら・籾殻）も伝染源となります。したがって、前述の稲わら・籾殻を育苗施設から撤去し、適正かつ効果的な種子消毒、育苗期いもち防除で持ち込みを最小限に食い止めます。

特に、昨年は穂いもちの発生が多かったことから、今年は上記の耕種的防除とベンレート水和

剤、ビームゾルのいずれかで育苗期いもち防除を必ず行い、本田葉いもち防除には育苗箱処理剤を使用して穂いもちの被害を未然に防ぐよう努めます。

【斑点米カメムシ類防除対策】

本県の主要加害種であるアカスジカスミカメは、水田内外の除草対策が重要であります。水田内にホタルイ類等のカヤツリグサ科雑草やノビエが発生すると、本種の水田内への侵入を助長するため、雑草防除を徹底します。また、畦畔・農道の除草対策として、出穂期10日後頃に行う茎葉散布剤の散布当日から散布7日後までに草刈りを必ず行い、本種の増殖源となるイネ科雑草の除去に努めます。

薬剤散布は、水田内で出穂したホタルイ類等のカヤツリグサ科雑草やノビエが発生している圃場や斑点米カメムシ類の発生源となるイネ科植物が主体の牧草地や休耕田などに隣接した圃場、発生予察情報に基づいて多発が予想される場合は、茎葉散布剤により出穂期10日後頃と同24日後頃の2回防除を必ず実施します。

【台風等による被害対策】

台風は強い風雨を伴うため、倒伏や風水害、進路によってはフェーン現象や潮風害の原因となります。特に、倒伏すると受光体勢が著しく悪化し、登熟の低下による減収と穂発芽による品質低下を招くため、倒伏した場合は対策として次の事項を実施します。

- ①圃場の停滞水は早めに排水する。
- ②早期に倒伏した場合は、速やかに4株ずつ束ねて立て直し、穂が乾燥するようにする。
- ③登熟後期の場合は、早めに刈り取るとともに、穂発芽した場合は刈り分けを行い、品質低下を防止する。

【適期の刈り取りと乾燥・調製】

刈り遅れや早刈りによる品質低下を防止するため、適期の刈り取りに努めます。刈り取り時期は出穂期後の日平均気温の積算値を目安としますが、日照時間が平年より少ない場合は、出穂期翌日からの積算日照時間も考慮します。なお、圃場ごとに条件が異なることから、最終的な刈り取り時期の決定は、籾の黄化程度（黄色＋白色）を確認し、黄化が90％に達した時期で判断します。

刈り取り作業は、乾燥・調製能力に合わせた作業計画を立てます。また、カントリーエレベーターやライスセンターを利用する場合は、早期に利用計画を組みます。

乾燥と調製は、米を商品として仕上げる大事な作業です。作業の良否が米の品質・食味に影響するため、過乾燥を避け、籾摺り・米選を適正な処理量で行います。

(注) 作況ニュース（第8号）より記載していますので、詳しくは「作況ニュース（第8号）秋田県農林水産部」及び「稲作指導指針（令和2年3月秋田県農林水産部）」を参照のこと



ご紹介

2021シーズンもブラウブリッツ秋田を応援！

～県外キャンプに向け秋田県産農畜産物を贈呈～

2021明治安田生命J2リーグ開幕に向け、県外で2次キャンプを行うブラウブリッツ秋田を秋田県産農畜産物で応援しようと、JA全農あきたは1月14日、「秋田県産あきたこまち」400kg、県産りんご、トマト100%使用のジュース「のむりんご」「のむトマト」合わせて60ケース、秋田県産豚肉50kgを贈呈しました。

JA全農あきたの佐藤英一副部長が「昨年は秋田県民の悲願であるJ2昇格を達成していただきありがとうございます。新型コロナウイルスの影響に加え、大雪で県内生産者に被害がでている。選手のみなさんには雪解けできるくらいの熱い闘志を持ち、J2の舞台で活躍していただきたい」と激励し、選手達に目録を手渡しました。



左から：輪笠祐土選手・中村亮太選手・JA全農あきた 佐藤英一副部長・ブラウブリッツ秋田 岩瀬浩介
代表取締役社長・山田尚幸選手

管理部 企画管理課 ☎018-864-2422



2月14日は大切な人にお花を贈る日。



お花に想いを込めて

Flower Valentine 2021

フラワーバレンタイン

キャンペーン店舗一覧

- | | |
|---|--|
| 秋田市 *絳花のヤマト *菊花みづき サンフェスタ店
*花の鈴屋 *絳花屋秋田フラワーセンター
*花小町 *フラワーショップかおる
*フラワーおの *フラワーギフト花太郎
*マルワ生花店 *花もみいる *花れん | 能代市 *ユー花のしろ絳 *絳花まり
横手市 *花の店ササキ *菊花の店おしま
仙北市 *フローリストhana萌音
大館市 *花ドーム絳 *菊アバフローリスト
湯沢市 *菊花佐伊藤伝作商店
男鹿市 *花の守屋商店
北秋田市 *菊たかのすフラワー |
| 大仙市 *丸谷生花店 *菊花の店清花
*菊ちぐさ生花店 *菊三浦生花店 | |



秋田県内の生花店と花きを取り扱う卸売業者でつくるフラワーバレンタイン推進委員会は、バレンタインデーに男性から女性に花を贈る「フラワーバレンタイン」を広めるとともに、秋田県産花きをPRし生花業界を活気づけようと2010年から活動しています。JA全農あきたも特別協賛しています。バレンタインデーにお花を贈って、感謝や愛情を素直に伝えてみませんか！

園芸畜産部 園芸課 ☎018-864-2491



Za・あぐりふおーむ
Zennoh-akita agriculture+reform



JA全農あきた営農情報誌 Za・あぐりふおーむ
第12号 令和3年2月5日発行

編集・発行 JA全農あきた営農支援部営農支援課 〒010-8558秋田市八橋南2丁目10番16号 018-864-2462